

2-1

## 国際的な視点に立った教育の推進①

目 標

・どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考え、その実現を目指して学び続けるこどもたちを育てるため、国際的な視点に立った教育を推進する。



### 1 現状と課題

本市の仙台市基本計画において、こどもたちの未来が広がる環境づくりを掲げ、こどもたちの意欲を引き出し、伸ばす教育環境の構築や個性に合わせた成長の機会を作るなどの方向性が示されている。ナノテラスの本格稼働や東北大学の国際卓越研究大学認定を背景に、都市機能の向上や企業集積、外国人住民の増加が進み、地域の多様性が高まることが見込まれ、グローバル化がますます進む中、未来の社会を担うこどもたちが、互いを認め合い、自分らしく学び、多様な価値観に触れながら柔軟な思考や国際感覚を身に付けることが求められている。

### 2 教育委員会の主な施策

新教科（仮称）「国際探究科」の創設をはじめ、以下の四つの施策(1)～(4)を柱に、国際的な視点に立った教育を推進する。

#### (1) 教育課程特例校制度に基づく新教科の創設に向けて

外国語教育(外国語活動・外国語科)においては、令和11年度の新教科（仮称）「国際探究科」の全面実施を見据えながら、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力の育成及び、英語による言語活動の一層の充実を図るため、外国語活動・外国語科における授業改善を推進する。そのために、小中連携の観点を踏まえ、研修や学校訪問等で教員の英語力及び指導力向上を図る。

### (仮称) 国際探究科とは

当事者意識をもって他者と積極的にコミュニケーションを図り、問題を発見・解決できる資質・能力を育成するため、教育課程特例校制度の活用による小中学校で一貫して学ぶ英語を核とした新教科を令和11年度から全市立小中学校で実施する。【小学校3年生～中学校3年生を想定。小学校1・2年生生活科の中での体験的な学びの充実。】

#### 何ができるようになるか

- ・ダイバーシティの意識・態度の醸成
- ・主体的に学び続ける態度と英語を活用した表現力
- ・国内外の課題を解決しようとする創造的・論理的思考力
- ・世界の一員としての自覚と自己の確立

#### 何を学ぶか

- ・新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた英語の授業内容を核とした学習
- ・地域や日本の文化、歴史、科学や世界とのつながり、自分づくり教育や防災教育と関連させた、生きて働く知識・技能

#### どのように学ぶか

- ・教科書題材や独自教材を使用して、国際的な視点の題材や体験を通じた活動、地域の歴史・文化や科学技術、職業観、防災等をテーマに英語を活用した教科等横断的で体験的な学びの実践
- ・学んだことを積極的に活用した探究的で深い学びの実践

【(仮称) 国際探究科の全面実施までの予定】

令和8・9年度 協力校による実践研究

令和10年度 教育課程特例校制度による一部市内小中学校で先行実施  
【新教科の年間授業時間数】＝【外国語活動・外国語科標準時数】＋  
【15時間程度(総合的な学習の時間から時数を活用)】

令和11年度～ 全市立小中学校で全面実施

問合せ先【国際教育推進課 022-214-8961】

## 国際的な視点に立った教育の推進②

・どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考え、その実現を目指して学び続けるこどもたちを育てるため、国際的な視点に立った教育を推進する。



### (2) 小学校へのALT配置の拡充

令和7年度10月に40名のALTを追加し小学校に常駐配置した。令和8年4月には、さらに新たに40名を小学校に追加配置し、令和9年度までに全ての市立小学校へALT配置を完了させるとともに、ALTの授業参画回数の拡大と活用促進を図る。また、授業以外でも、校内外におけるALTとの交流を通して、異文化に触れる機会を構築する。

### (3) 国際交流事業の充実

在外教育施設派遣等の経験のある教員や外国からの留学生との交流、また、外国の学校と英語を使ったオンライン国際交流などの実施を拡充し、授業や日常の中で自然に異文化に触れ、理解を深めたり、コミュニケーションの楽しさを実感したりできる環境を整備する。

### (4) 帰国・外国人児童生等への支援

日本語や学校生活の支援が必要な帰国・外国人児童生徒等が在籍する学校に対して、日本語初期指導や通訳支援を行う指導協力者派遣、自動翻訳機・自動翻訳ツールを貸与するなどの支援に取り組む。また、(仮称)仙台国際探究ラボで実施する通所等による日本語初期指導に必要となるカリキュラム作成等を行う。

## 3 学校で特に力を入れる取組

### (1) 外国語活動・外国語科における指導の工夫

「英語教育実施状況調査」(中学校で実施)や「仙台市標準学力検査」の結果や課題を基に立てた「仙台市英語教育改善プラン」及び「仙台市標準学力検査結果分析及び指導改善の方策」を参考に授業改善に取り組む。また、ALTとのチーム・ティーチングやICTの有効な活用を通して、児童生徒の興味・関心をより高めるとともに、外国語による言語活動の更なる充実を図る。

### (2) ALTの活用

ALT配置の拡充により、勤務日数が増加した学校においては、ALTが参画する授業時数を増やす。さらに、学校生活全般においても、児童生徒及び教職員がALTと英語でコミュニケーションを取ったり、文化交流をしたりする機会を創出する。

### (3) 国際交流事業の充実

外国語活動・外国語科のほか、総合的な学習の時間や特別活動など関連する教科等において、留学生との交流や外国の学校とのオンライン国際交流などを通して、異文化に触れる機会を創出する。

### (4) 帰国・外国人児童生等への支援体制の構築

外国につながるのある児童生徒の入学・転入があった場合は、市教委、公益財団法人仙台観光国際協会(SenTIA)等の関係機関と連携を図りながら、支援体制を構築する。

## (仮称) 仙台国際探究ラボとは

「国際的な視点に立った教育」の推進に資する、児童生徒と学校に対する学びの支援や事業を行う。

